

令和8年度 福井県立道守高等学校（通信制）スクールプラン

教育目標

- ・基礎学力の充実を図り、学びに向かう姿勢を醸成するとともに、社会の中で自立して生きていくことができる資質・能力の育成を目指す
 - (1) 学校生活のみならず生涯にわたり継続的に学ぶとする力
 - (2) 自己理解を基礎として、思いやりの心を持って、他者とつながろうとする力
 - (3) 社会規範を守り、主体的に社会に関わりながら生活する力

業務改善のための取り組み

- ・多忙化解消のための、行事の精選を行い、効率的な学校運営を心がける。
- ・ICT活用による、連絡事項のスリム化、印刷物・配布物の削減などを行う。
- ・会議のスリム化のために、資料の簡素化や事前配付などに取り組む。

人権教育の推進

- ・生徒の実態に即し、学校教育活動全体を通して、人権尊重の意識を高める。
- ・他者との共生を図る活動を通して、人権教育を組織的・計画的に推進する。
- ・国際理解教育の推進と、共に生きていこうとする態度を育てる。

重点目標

1 教育課程 学習支援	2 生徒支援	3 進路支援	4 生徒理解	5 健康安全	6 生涯学習
多様な生徒に対応したきめ細やかな学習支援に努め、通信教育の基本である自学自習の姿勢を育成する。	集団や社会の一員として、規則やマナーを守る態度や他者の存在や尊敬を認め、いじめを許さない態度を育成する。また、学校行事や生徒会活動及び部活動等を通して主体的に行動する力を養う。	卒業後の生き方を見据え、生徒の実態に応じたきめ細かい進路支援を行う。	学校生活のあらゆる場面において、生徒の心のケアに努め、生徒が安定した生活を送られるよう、また、他者と関わる力が広がるように支援する。	校舎内外の美化・健康に関する意識の向上に努め、学習環境を整備する。	広報活動を充実させ生徒の意欲を喚起するとともに、保護者の知りたい情報を提供することで家庭との連携を密にする。また、読書や放送視聴を勧め生涯学習の一助とする。
具体的取組 a 「学習の手引き」を活用して、自己管理能力や計画的に自学自習しようとする資質・能力を育成する。 目標：計画的に自学自習に取り組んだ生徒の割合80%以上 b 生徒の学習意欲を喚起し学習成果を上げるために以下の点に留意して指導する。 ・水曜学習支援の啓蒙 ・理解しやすい授業づくりと丁寧な添削指導 ・Google Classroomの積極的活用 目標：学習成果が上がり、満足できた生徒の割合80%以上	具体的取組 a 特別活動を通して、思いやりや助け合いの心を持って行動できる生徒の育成に努める。また、いじめの早期発見や早期解決に向けた取り組みに努める。 目標：校内で安心して学校生活を送れていると感じる生徒の割合90%以上 b 研修会等で具体的な問題を提起し、生徒自身に考えさせる場面を設けることで、社会の一員としての規範意識を身につけさせる。 目標：生徒が学校生活を通して規範意識を身につけていると感じる保護者の割合90%以上 c 生徒に特別活動や部活動への参加を促し、集団の中で他者と協力することの大切さを伝える。 目標：積極的に活動へ参加した生徒の割合80%以上	具体的取組 a 生徒のコミュニケーション力を育てるとともに、自己理解を深め、進路意識の向上を図るために、以下の実践を行う。 ・進路ガイダンス ・進路オリエンテーション ・職業観育成講座 ・教員との面談 ・様々な関係機関との連携 目標：自己理解を深め進路について考えた生徒の割合80%以上 b 進路に関する情報を共有し生徒の実態に応じたきめ細かい指導に役立てる。 目標：進路の行事や面談を通して生徒の進路意識を高めることができたと感じる教職員の割合90%以上	具体的取組 a すべての教職員が生徒理解・状況把握に努め、多様な生徒に対応した適切な関わりをできるように、生徒情報交換会や事例検討会、教育相談研修会を実施し、SC・SSW・専門機関等との連携を強化する。 目標：親身に関わってもらえたと感じている生徒の割合80%以上 b 保護者面談や「保護者のつどい」の内容の充実を図り、保護者への支援が生徒支援につながるようにする。 目標：生徒を大切にしてもらっていると感じている保護者の割合80%以上	具体的取組 a 生徒が美化ボランティアや清掃活動に自主的に取り組むことができるように、家庭と連携しながら美化意識を高めていく。 目標：取り組んだ生徒の割合80%以上 b LH等を通して薬物、喫煙が体に及ぼす影響を理解させ健康への意識を高める。学級担任と連携し健康診断受診の必要性について、保護者および生徒に対する啓蒙活動に努める。 目標：健康への意識を高めた生徒の割合90%以上	具体的取組 a 「通信道守」等の発行により、生徒・保護者に適切な情報が届くように工夫する。 目標：必要な情報が得られた生徒の割合80%以上 b 授業・LH・広報などの機会を利用し、様々なメディアから情報を適切に収集、評価、活用、発信する能力である情報リテラシー能力を育むことに努める。 目標：読書を促す活動や掲示物を通して興味を感じ情報を検索した生徒の割合70%以上